

## 東海村農業振興計画（案）に対するご意見と回答

建設農政部農業政策課

No.	ご意見	回答
1	全国的に高齢化が進む中、離農する農家が増えている。生産のために投資した分の収益を得られない今の農業では、ますます離農が加速する恐れがある。今こそ行政の4本柱に相応しい農業への投資を行うべきである。	わが国の農業は、効率的な農業経営により生産コストを圧縮し利益を得る経営体と、他職種・年金等の農業以外の収入によって収益を賄う小規模経営体とによって支えられており、本村も同様となっています。収益を上げることは産業としての農業を営む上で重要なことですので、東海村周辺の約70万人の消費者を新たなマーケットのターゲットとした販売・消費の仕組みの構築を目指します。また、農業への投資については、今後、重点施策を進めていく中で計画的に事業を実施していく予定です。(3-1, 3-2)
2	農業振興の大意を解し、本村の将来を考えて、賛同、協力できる農家・営農集団を対象に特化したモデル農業を展開し、収益を上げていくことで、本村の農業を牽引していくべきである。	村内には、農地所有適格法人や集落営農が極めて少ない状況にあります。新たな担い手を育成・確保することにより、シニア世代や女性も含めた農業参画を目指します。また、水田における集落営農、畑を利用した労働粗放的な畑作などの新たな取り組みも含め、農地の面的集積によるコストダウンを図る取り組みも検討していく予定です。(3-1)
3	村内の約67%の農家は、税制優遇を受けている。いわゆる小規模農家を含めた八方美人的な農業振興計画ではまた失敗する。従って、計画を進めるにあたり、行政とJAの分担を明白にし、責任体制を作り上げることである。	東海村農業振興計画を推進するにあたり、JAとの連携も重要となります。今後、行政とJAとの役割分担を明らかにし、より農業の活性化に結びつけていく予定です。(国・県・東海村の各計画との関連性)

4	JA の営農指導力，経営指導力の不足が目立つ。例えば，水田，畑地土壌分析マップがない。各畑の土質が明白ではなく，施肥設計の指導が不十分。例えば，水田の倒伏現象による収量不足は，毎年続いているが営農指導がされているとは思えない。肥料の選定誤りだと思う。	東海村農業振興計画を推進するにあたり，JA との連携も重要となります。今後，行政と JA との役割分担を明らかにし，より農業の活性化に結びつけていく予定です。（国・県・東海村の各計画との関連性）
5	小規模農家で後継者のいない所は，村が進めている農地銀行に圃場を積極的に預ける。銀行の圃場は，農業公社が一括して管理・運用することで集約化を図る。預けた農家は，圃場の広さに応じて株券を持つ株主となり，農業公社が企業主として運用利益を上げていく。	今後も農地中間管理事業等を活用した農地集積を推進していく予定です。農業公社に期待される機能は，自ら農業生産を行う機能に限られるものでなく，農作業受託・農地貸借の仲介斡旋，6 次産業化の推進，担い手育成について期待されています。ご提案の手法についても今後の参考とさせていただきます。
6	今後は気候変動，地球温暖化による高温障害に強い種苗の開発が必要となる。	高温障害に強い種苗の開発については，現在，国の機関（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）において研究が進められておりますので，情報の共有を続けていく予定です。（農研機構資料）
7	野菜栽培については，周年栽培を可能にするハウス設備のモデル地区を作る。これは，土地の利活用の向上と収益の向上を図る。この設備と国の地方創生の予算の誘引を考える。	本村の目指す将来像として都市近郊型農業モデルを提示しています。周年栽培による安定供給と収益の向上はこの考え方に合致しています。土地利用の一つの活用方法として参考とさせていただきます。（4-2-2）
8	本村には世に認められたブランド品は無いと思いますので，例えば，「ブランド米」「エゴマ」など対象を決めて，そのための工程を決めて JA が強力に指導する。	ブランド化と特産品開発に向けた施策としまして，農業者と商工会や観光協会，小売店の意見交換の場を設定し，ブランド米やエゴマなど新たな特産品開発に向けた組織づくりを進めていく予定です。（4-2-1）

9	<p>古老の知恵を活用し、高齢者の就業先として6次産業を起業し元気の農業を作り健康な高齢者を育てる。</p>	<p>多様な担い手の育成の施策として、品目別に卓越した農業技術を持つ農業者に対する農業者マイスターの認定により、新規就農者の育成体制を構築する予定です。(4-1-2)</p>
10	<p>未来農業として、1～2ヘクタールの圃場で大型鉄骨ハウスを作り無農薬水稻栽培による高級寿司米、酒米を作る設備を作りたい。</p>	<p>ブランド化と特産品開発に向けた施策の具体的な取組みの一つとして参考とさせていただきます。(4-2-1)</p>
11	<p>これからの形を決めない担い手の育成・確保について、小規模農業の有効性を明らかにし、小事業者の組織化の推進が必要と考えます。また、新規就農者及び小規模農業者向けの教育指導(ソフト、SNSなどの活用を含む)システムの構築が必要だと考えます。</p>	<p>都市近郊型農業の展開には、小規模農家による消費者ニーズに対するきめの細かいサービスの提供が可能と考えます。多様な担い手の育成の施策として、品目別に卓越した農業技術を持つ農業者に対して農業マイスターの認定により、新規就農者の育成体制を構築する予定ですが、ご提案のシステムについても今後の参考とさせていただきます。(4-1-2)</p>
12	<p>ひとにやさしい安全の提供による信頼（ブランド化）については、環境保全型農業への行政的バックアップが必要だと考えます。</p>	<p>有機農業や可能な限り農薬や化学肥料を減らした環境保全型農業にも取り組む予定です。(4-3-2)</p>
13	<p>コミュニケーションを通して地産地消への誘導について、行政は、レクレーションなど地域とのコミュニケーションを積極的に取り組む農家に対し、販売時の優遇措置を行うことにより農業者への育成を図ることが大切だと考えます。</p>	<p>地域とのコミュニケーションを図ることは、農業が地域と共存する上で大切なことと考えます。農業者と地域の方々の交流を促進することで、例えば、農産物のオーナー制度や観光農園についても検討する予定です。(4-3-1)</p>
14	<p>子供を育てるお母さんと農業者のコミュニケーションを期待しています。生産者と消費者がもっと力強く接することで、ある意味農業の振興につながるのではないかと考えます。</p>	<p>農業者と消費者のコミュニケーションを通して、農作物を作る方々の顔や思いが見えるものを子供と一緒に食べる環境づくりは、人にやさしいだけでなく、食育にもつながると思います。貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>